

育G新聞

Vol.3

イクジイが日本を元気にする。

毎月1回連載

育G新聞編集部 編集協力：
NPO法人 フザーリング・ジャパン
NPO法人 孫育て・ニッポン

育G インフォメーション

第1回孫育てフォーラム

「家族で深めよう、地域に
広げよう孫育ての和」

【日程】 6/3 (日)
【時間】 午前10時30分～12時30分
【場所】 東京都台東区
社団法人日本助産師会2階研修室
【参加費】 無料
【対象】 祖父母、ママ・パパ、子育て、
孫育てに関心のある方

【お問い合わせ・お申込み】
<http://www.magosodate-nippon.org/>

【定員】 60名(先着順、要予約)
【主催】 NPO法人 孫育て・ニッポン

イクジスクール6/11(月)開講決定!

【日程】 全5回
6/11(月) 6/25(月) 7/9(月) 7/23(月) 8/6(月)
【時間】 午後6時30分～午後8時30分
【場所】 東京都中央区
京華スクエア・ハイテクセンター
【対象】 子育て、孫育て、社会貢献に
関心のある男性
【主催】 特定非営利活動法人
フザーリング・ジャパン
詳細→ <http://www.fathering.jp/ikujii/>

★ 育G発見 ★

No.3

日本おもちゃ病院協会
副会長 / おもちゃドクター
三浦康夫さん

元小学校の教室、白衣ならぬエプロンをつけたボランティアスタッフ
「おもちゃドクター」たちが壊れたおもちゃを「治療」している。
黒板で回路図を書いている人も。
三浦康夫さんは、ドクター歴15年のベテランだ。

子どもの頃は、おもちゃでも何でもすぐ分解してしまってよく叱られていきました。そこから自然とエンジニアの道に進みました。今から15年ほど前、ふと目についた「おもちゃドクター養成講座」に通ってみて、これはおもしろいなあ、と。おもちゃの修理は、電化製品とちがってマニュアルがない。奥が深い世界です。すっかり夢中になって、平日は仕事、土日はおもちゃドクターという生活を続けてきました。

最近のおもちゃの多くは「メイド・イン・チャイナ」なので、日本には部品がないんです。これは考えるしかありません。でも、直して欲しいという子どもがいるから、こたえてあげたい。必要な部品や工具を手作りすることも多いです。難し

ければ難しいほど、達成感がある。そして、「ありがとう！」と子どもたちから感謝される。もう、これはやめられませんね。



協会ではドクター養成講座を開催しており、毎年200人ほどドクターが生まれています。おもちゃを修理するには、構造に対する理解と想像力が必要です。だから、人生経験を積んだベテランが向いているんです。みんな目をキラキラさせています。向学心も強くて、「おもちゃショー」で研究してくる人もいますよ。最近では、大手おもちゃ店と連携したり活動の場も広がっています。

持ち込まれるおもちゃは、最新の知育玩具から大正時代に作られた西洋人形までさまざま。お話をきいている間にも、パパに連れられた男の子がすっかり直ったおもちゃと対面して満面の笑みで帰っていました。



ご自身のお孫さんのおもちゃの「かかりつけドクター」もされているという三浦さん、日本のものづくりを支えてきた技術が、こんな形で子どもたちにつながっている。

日本おもちゃ病院協会HP toyhospital.org
Email:jimukyoku@toyhospital.org

育Gの極意



めざせ！エコジイ

イマドキの子どもたちはゴミの分別はもちろん、ペットボトルキャップの回収などエコへの関心も高く、ちょっとやそとのエコでは「ジイ、すごい～」とは言ってもらえない。

そこで、おすすめなのが太陽光発電システムの導入など、目に見えやすいエコ。設置には初期投資が必要だが、晴れた日は電気が作られていく様子が数字ではっきりとわかるので、子どもも興味を持ちやすい。理科力が乏しいイマドキの子どもの自然科学への入り口にもピッタリ。電気を売ったお金は孫へプレゼント、なんてスーパーEコジイも登場するかも。

太陽光発電を導入するのはハードルが高いというジイは、災害時にも役立つ携帯充電付手回しラジオライトなどを使ってケータイを充電したり、ラジオを聞いてみるのもおすすめ。災害時の練習にもなって一石二鳥。

育G潮流

子どものコミュニケーションが
脳を活性化する

東北大学の川島隆太氏は、2004年、東北大学と仙台市が共同で行った“高齢者と児童の交流プロジェクト「あそびの学び舎」”を推進し、高齢者の脳機能検査を行い、「子どもと交流することで、高齢者の脳は若返る」という検証結果を発表した。

検査はプロジェクト開始前と開始後に、認知の能力と記憶力を検査する MMSE

育Gスタイル

育Gスタイリスト G・ハヤシがおすすめ！
エコしながら、孫といっしょに楽しめる
「ゴーヤのグリーンカーテン作り」。



用意するものは、培養土、深めのプランター、支柱、ネット(10センチ角がおすすめ)、ゴーヤの苗。つるが伸びてきたら麻ヒモなどでネットに結びつけていきましょう。親づると子づる2、3本だけを伸ばすのがコツ。夏には次々と実がなります。ゴーヤの苦みが苦手な人は、熱湯を通して、塩水につけてから料理すると食べやすくなりますよ。

と前頭葉の機能を測定するFABを実施。結果は、MMSEの得点は開始前、開始後ではほとんど変わらず、FABの得点は平均が14.4から14.8に改善。

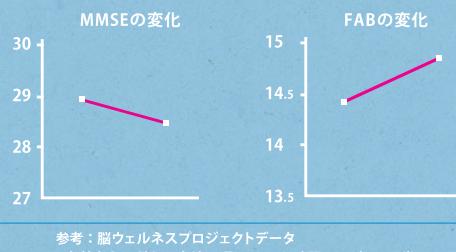
高齢者のMMSEは、音読や計算などのトレーニングを行うと改善されるが何もしないと得点が大きく下がる。MMSEが下がらずFABが上がったという今回の結果は、高齢者

が子どもと関わることで脳機能に改善効果があったといえるという。

その他、このプロジェクトの中で、川島氏は「高齢者と子どもの視線がそろうことで、真のコミュニケーションが生まれる」「高齢者の『知恵・知識・モラル』で、子どもの脳が育つ」と検証した。

このようにシニア世代と子どもの関わりは、脳科学的にも良いことが実証されている。自分の脳、子ども・孫の脳が活性化するしかないかは、実践するかしないかで決まってくるようだ。(ぼうだあきこ)

* 高齢者と子どもの交流3ヶ月の成果



参考文献：高齢者が子どもの
『脳』を育てる(学習研究社)